

教育の改革 について



日本経済団体連合会会長

奥田 碩 氏

人づくり、即ち教育は国家の繁栄を左右する最も基本となるものです。トヨタにも、創業期から今日まで、「モノづくりは人づくり」という考え方が脈々と受け継がれています。人がモノをつくるのだから、優れた人をつくらなければ、良いモノづくりも始まらないということです。

わが国の教育については、近年、初等・中等から高等教育に至るまで、学力低下、公共心の欠如など、様々な問題が指摘されており、その改革をめぐる議論が盛んに行われています。また、昨年三月の中央教育審議会の答申を契機に、わが国の教育の基本的なあり方を方向付ける教育基本法の改正が検討されています。

私が会長を務めている日本経団連でも新しい日本の発展の方向を示す

教育随想



平成16年4月1日

4月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
日本経済団体連合会会長 奥田 碩氏	
この人に聞く	2
岡崎市教育文化賞受賞者 鶴田 秋夫氏	
羅針盤	2
竜海中学校長 平野 有行	
ふれあい	3
小豆坂小 河合中	
石川裕美子 高橋 誠	
特集	4
平成16年度 学校教育の視点	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
岡崎市中学校総合体育大会 (昭和32年)	
この本を	8



「新ビジョン」を策定し、その中で教育の改革を訴えました。例えば、公立学校の学区制の撤廃や株式会社による学校の設立を認めることなどにより、より良い教育を求め、学ぶ場を自由に選択できるようにしていくこと等を提案しています。

初等・中等にせよ高等教育にせよ、改革を論じ実現していく上で最も重要なことがあります。それは、必ず「現場の声を聞く」「現場の実態を踏まえる」ということです。ト

ヨタにも「現地・現物」という言葉があります。ものごとに対処するに当たり、先入観は持たず、何事も現場を自分の目で見、自分の頭で考えるということなのです。これは教育でもまったく同じで、現場から遊離した議論は対策の誤りを招きかねません。教育現場の実態を的確に把握し、正しい対策を打ち出し、着実に実行していく改革が重要であり、産業界もその一翼を担わなければならないと思います。(おくだ ひろし)

この人に聞く

ふるさとシリーズ



天が与えた第二の人生

鶴田 秋夫 氏

幼稚園児や小学生に対する交通安全指導の功績が称えられ、平成十五年「岡崎市教育文化賞」を受賞された鶴田さん。八十二歳となった今でも、毎朝交通安全指導に立つ。そんな鶴田さんを訪ねた。

「横断歩道を渡るときに、『おはよう』と子供の方からあいさつされるとうれしいですね。こつちも、『はい、おはよう』と返事をするのです。』目を細め語る。子供とのかかわりを大切にしている鶴田さんは、交通安全指導だけでなく、招待された小

学校で昔の遊びを教えたり、手品を披露したりして、子供たちを喜ばせる。

「雨の日は、大変ですね。でも、休んで事故があったら責任を感じてしまいます。寝坊して顔も洗わずに出かけることもあるのですよ。」

十七年も続けてきた苦勞を、ユーモアを交えながらさらりと話される。交通安全指導を始められたきっかけをお聞きした。

「交通安全指導は、自分の健康にもなるし、人のためにもなる。こんなに良いことはないと思って始めたのです。」

定年退職後、鶴田さんは、命にかかわるほどの大病を患い、大きな手術を経験された。この大病をきっかけに、鶴田さんの人生は大きく変わ

ったという。

「命の保障はできんと医者に言われた自分が助かった。生かしてもらったお礼を何かしなければと思っていた時、これはいいと思ったのです。」

天が与えてくれた第二の人生、第二の仕事だと思つています。ありがたいことだと感謝し、毎日元気にやらせてもらっています。」

熱く語られるその口調に、十代二十代にも負けない若々しさを感じた。「ちょうど今、私の人生は半分終わったところだと思つて生きています」との話を聞き、強い信念と実行力に感心させられた。

最後に、今の子供たちにどんな大人になつてほしいかお聞きした。

「自分が弱かったこともあるのですが、やっぱり丈夫な子になつてほしいですね。それから、人のためになる仕事をしてほしいと思います。」
長年、ボランティアで交通安全指導に携わってきた人柄が、その言葉に重みを加えた。

氏名 つるた あきお
生年月日 大正九年十一月八日
住所 矢作町尊所五七―四



今こそ 人材養成を

竜海中学校長 平野 有行

中学校は、暗くなつてからも忙しい時が多い。授業・部活後に情報の収集と問題対応に迫られることが多いからである。

いちばん多いのは、やはり生徒指導上の問題である。これを関係者からいかに聞き出し、いかに適切に実態を把握するかが、第一の鍵である。

次に、その対応をどのようにするかだ。私は、大方次の二場面を目安に対処している。ひとつは、関係者中心で対応し、私は必要に応じて言葉を含んだり、後で労いの言葉をかけたりする程度の場合。もうひとつは、初めから私も含めて協議する場合。いずれも校長室で行い、その日のうちに、事後指導内容まで方向付けるようにしている。次の日に回さないことが第二の鍵であり、危機管理上大切な押さえである。

A男とともに

小豆坂小 石川裕美子

「石川先生、石川先生」と呼ぶ。「石川先生、石川先生」と声を掛ける。A男は、一日何十回と。

A男と出会ったのは二年前。私は、A男のような子に初めて出会った。席にじっとしていることができない。私の指示が聞けない。自分勝手に話し出し、行動する。私にとっては理解できない子であった。叱ったり注意したりすることが多く、毎日暗い気持ちになった。

A男は、「七夕会」や「クリスマス会」など、会をすることが好きだった。特に司会を任せると上手だった。「B君、はじめのことばを言ってください」「C君、こうやればいいよ」。学級の子もそれについて行動することができた。A男の活躍の



場がここにあることに気付いた。私は、いろいろな会を計画してはA男を思い切り活躍させた。

会を進行するという、A男にとつてうれしいこと楽しいことは、学級の子にとつてもうれしいし楽しい。A男が頑張れば、みんなも頑張る。A男が笑えば、みんなも笑う。教室の中が明るくなり、楽しくなった。今日も、「石川先生、石川先生」と呼ぶA男。A男の張り切った声で学級の一日がスタートする。



「七人の田舎侍」の優勝

河合中 高橋 誠

全校生徒八十人。二年生の全男子十人。うちテニス部員七人。これが、今春河合中を巣立った学年の、新人戦を戦ったときの状況であった。

河合中で部活仲間であるということとは、即ち一日中一緒にいることを意味する。それは、顧問にも言える。家族と過ごす時間の数倍を、彼らと過ごしている。するといろいろと見



えてしまい、良くも悪くも裏切られることは少ない。今年の新人戦はどの部も弁当を食べる前に帰ってくるかも、という下馬評に対し、

「先輩たちの作った伝統を壊さないよう、絶対勝ってきます。」
そう宣言した田舎侍大将キャプテン。たわいもなく私が答える。

「それじゃあ負けたら、俺もするから全員坊主にすっか。」

彼と仲間たちは、数倍の人数の部員と応援団を擁した相手にひるむことなく戦いを挑んでいった。

二回戦・三回戦……そして決勝戦。「ゲームオーバー。セット。」

この瞬間、彼らには、しっかりと上手に裏切ってもらえた。

その翌年、彼らを担任。この人数の河合中における「顧問&担任」、これはもう子育てに近い。

卒業アルバムにはこの優勝旗を誇らしげに囲んで写る素朴な「七人の田舎侍」の笑顔があった。

後者の対応は、特に留意したい。この際、校長だけの考えに終始しないように心掛けていた。私は、話し合いに役職者と生徒指導主事を入れ、関係者も含めて検討することにしている。それは、最終的には校長が判断するものの、学校推進者の意志結集が図られるかどうかのポイントになるからである。本校の現状、今後の進め方、将来の教育ビジョン等を鑑み、より妥当性・よりの確性に富む方策を生み出す努力をすることが第三の鍵である。

特効薬があるわけではないのに解決策を迫られる苦渋、場合によっては体を張らなければならない実行への決意固め。この一連の苦悩の積み重ねほど、職員を育て、職員との絆を深めることはない。

公教育のあり方が問われている。今、現場に間に合う人材をいかに確保及び養成するかは急務である。そこに焦点化された施策こそ、現場発想の教育改革といえる。

年度が変わっても、校長室の「夜の部」は、相変わらず賑やかである。時間を超越してもゆるがなない職員の前向きさに感謝しつつ、さらなる成長を期待し、「今日もやるか」と、定年馬に鞭を打つ。



平成16年度 学校教育の視点

新学習指導要領が全面实施されてから二年が経過した。平成十五年末には一部改正が行われたが、そのねらいの更なる具現化を図ったものである。(本誌『教育最新情報』参照)

各学校では、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、それぞれの特色を生かした実践が積極的に行われている。

「確かな学力」と「豊かな心」を育み、「信頼される学校づくり」を進めることは、子供たち一人一人が未来を切り拓き、たくましく生きぬく力をつけていく上で極めて大切であり、教育改革の大きな柱でもある。各学校においては、昨年度の実践を踏まえ、その反省と課題をもとに、さらに創意工夫に満ちた取組を意欲的に実施していきたい。

一 「学ぶ喜び」を味わわせ、「確かな学力」を育む学習指導の推進

子供には、本来、知りたい、分かりたい、できるようにになりたいという欲求がある。その欲求を学ぶ楽しさ、喜びとして高め、意欲をもって生涯を生きぬく基礎的な力をつけるために、次の二点に留意して指導したい。

第一は周囲を取り巻く社会事象について、自分なりに気づき、目を向け、課題意識をもって追究できる力を伸ばすことである。それによって、もっと知りたい、調べたいという気持が強くなり、意欲的な学びが促

進される。そのことが、子供たちが学ぶことの楽しさや喜びを知り、生きて働く確かな学力を身につけることにつながる。そのためには、教師が子供一人一人をしつかりとらえ、個に応じた支援を通して、個性を生かすことに心がけたい。また、学びをより効果的にするために、常に評価の観点や基準に照らし合わせ、個々の学びが確かなものになっているかを見極める必要がある。

第二は、基礎的・基本的な内容の厳選である。子供が生涯にわたって成長と発達をしていくために、どんな資質や能力をつけていけばよいのか、その基礎・基本を明確にし、繰り返し学ぶことによって確実に身につけるようにさせたい。基礎・基本の定着なくしては、確かな学力、将来に生きて働く力の育成はおぼつかない。

二 「豊かな心」と「たくましい体」を育む教育の推進

子供たちを取り巻く環境は、日々著しく変化している。変化に対応し、人として豊かに生きられるようにするための資質と能力を、他とのかかわり合いを通して育み、磨き上げていくことが求められている。

特に、人とかかわる場面においては、思いやる心、感謝する心、我慢する心などを持つことが大切である。誠意ある行動をとることができ



学校教育に求められているのは、児童生徒が人間として生涯にわたって心豊かで、力強く生きぬくための基盤となる能力を育成することと、知・徳・体の調和のとれた感性豊かな人間形成を図ることである。

各学校においては、基礎的、基本的な内容を重視し、個に応じた指導を充実するなかで、児童生徒の個性を伸ばす教育を展開することが大切である。

そのために、学校の創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成して、子供が自他を敬愛し、喜んで通うことのできる魅力ある学校づくりを目指す。

「教育は人なり」の至言のごとく、岡崎の教師は、教育者としての使命感に燃え、全校一致の指導体制のもと、敬愛の情で結ばれた師弟関係を確立し、学校と家庭と地域との連携のもとに信頼される教育の創造に努める。

指導の重点

- 一 「学ぶ喜び」を味わわせ、「確かな学力」を育む学習指導の推進
- 一 「豊かな心」と「たくましい体」を育む教育の推進
- 一 特色ある学校、開かれた学校づくりを通じた「信頼される学校経営」の推進

れば、相手は心地よく受け止めることができる。そして、互いの信頼関係が深まり、人としての「豊かな心」が醸成されていく。

また、教師の人間性が、子供の人格形成に与える影響は大きい。教師自身が正義と倫理を貫き、自己研鑽に励み、子供の手本としてふさわしい豊かな心を持ち、人格を磨き上げたい。

「たくましい体」を育成することは『生きる力』に直結するものである。体力の向上および心身の健康の増進を図るには、体育科の時間だけでなく、全教育活動の中で体験活動等を取り入れて行う必要がある。また、家庭や地域との連携を図り、日常生活におけるスポーツに親しむ習慣や健康にも留意させたい。

三 特色ある学校、開かれた学校づくりを通じた「信頼される学校経営」の推進

豊かな心の育成、自ら学び自ら考える力の育成、基礎・基本の定着や個性を生かす教育等の学習指導要領のねらいを実現するためには、特色ある学校づくりや開かれた学校づくりがその基盤となる。そこで、各学校が子供たちや地域の実態等を踏まえ、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開していくことが大切である。

そのためには、「総合的な学習の時間」や「選択教科」の工夫、地域

の教育力の活用等、積極的な取組を進めたい。

一方、「学校を開く」とは、施設をはじめ、教育活動、学校運営、教職員意識等を開くことである。そこで、学校の経営方針を地域に示したり、学校だよりやホームページ等で子供の日常の学校生活を知らせたり、また、自由参観週間を設け、子供たちの学習の様子を自由に見てもらう機会も積極的に設けていきたい。

さらに、オピニオン・サークルの活動を通して、子供・保護者・地域の人々の意見を取り入れるとともに、中学校区児童生徒健全育成協議会等を中心に、学区全体で子供たちを育てていくことも重要である。

このように学校を特色ある、開かれたものにするにより、いっそう家庭や地域社会の信頼に応える学校づくりが推進されていく。

以上、三つの重点にそった教育活動を積極的に推進し、具現化を図るためには、教師は教育の専門家としての使命感をもち、愛情に満ちあふれたねばり強い取組をしていかなければならない。

また各学校においては、校長のリーダーシップのもと、指導体制の確立を図り、全職員一丸となった子供の健全育成を展開したい。そして、教育活動についての評価をしながら、信頼される学校づくりに邁進したい。



● 教育最新情報

○ 学力の育成

昨年十二月二十六日付けで、新学習指導要領の一部改正が通知された。その内容は、次の三点である。

- ・学習指導要領の基準性を踏まえた指導の一層の充実
- ・総合的な学習の一層の充実
- ・個に応じた指導の一層の充実

各学校では、こうした国の方針を受け、新しい年度の学習にあたり、具体的な手立てを考えたことと思う。

本市では、昨年度、教育課程研究委員会を中心に「各教科の評価規準例集」を作成をした。単元の目標を観点別に表し、一時間ごとに具体的な数値や子供の姿を、A評価・B評価の二段階で示してある。ファイル形式なので、コピー



ーをするなどして広く活用するとともに、学校間、教師間の共通理解を図っていききたいものである。

一方、一昨年度作成した五教科の基礎学力向上教材の利用状況は、どうであろうか。子供たちの学力アップを目指し、現場の意見をもとにして、作られた教材である。さまざまな学習活動の場面で、積極的に活用することで、教材が生きてくると思う。

なお今年度は、学習指導要領の基準緩和を受け、次の三点で教材の加除修正を行う。

- ・発展学習教材の作成
- ・指導と評価の観点の明記
- ・全国と岡崎市の正答率の明記（比較による弱点克服）

○ 少人数指導

少人数指導授業も、子供が自己選択をするタイプの習熟

度別授業、あるいは、課題別授業の実施が増えている。

A小学校では、理科と算数科で少人数指導授業を実施し、成果を上げている。自分にあつた課題で学習できるため、子供たちからは、「授業が楽しい」「隣の学級の子と一緒に勉強できて刺激になる」など、教師の側からは、「丁寧な指導ができる」「個性を伸ばすことができる」などの感想が聞こえてくる。

しかし、少人数指導授業に振り回され、集団での学びがおろそかになってしまつては、学校教育も本末転倒である。両者のバランスを考えて指導していきたい。



▲ 理科課題別少人数指導授業

● 各所だより

○ 教育研究所

平成十五年七月に開館した教育文化館の利用者総数は二月末で二万五千人を超え、教育研究所の利用者総数も、一万一千五百余人と、多くの利用があつた。

昨年度は中核市移行に伴い、県から移譲された初任者研修、五年・十年経験者研修等多くの教員研修を市単独で実施した。また、現職教育各部会の会合や不登校、就学等の教育相談も行われ、多くの先生方や保護者の利用があつた。

本年度は、新たに次のことを計画している。
研修は、昨年度に加え、新任校長、教頭、教務主任研修が新たに移譲された。また、初任者研修では、今年度まで従来方式と拠点校方式を併せて実施するので、非常勤講師の運用、措置については十分ご留意いただきたい。
不登校相談は、土曜日の実施回数を十六回から四十回に増やす予定である。

○ 少年自然の家

昨年度は、市内六十の小中学校の利用の他に、主催事業を十二回実施した。本年度は、新たに五事業（ニート彗星を観察しよう・親子でカヌー・虫の音を聞く夕べ・親子そば打ち道場・簡単ウッドクラフト）を新設した。親子での参加を重視し、共通体験を通して健全な子育て支援を図りたいと考えている。

また、学校週五日制に対応してスタートした主催事業のすぶちネーチャークラブは市内の小中学校十七校、中学校三校の男女合わせて六十六名が会員となった。四季折々の自然に親しむきっかけになるように、多くの参加を期待している。

○ ハートピア岡崎

本年度も、岡額地区の中心施設として地区一体となった研究活動をさらに進める。また、訪問活動を充実し、家庭や学校との連携を取りながら体験活動などを通して、通所生の学校復帰意欲を育てていきたい。

● 期待の新任教員 四十四名

平成十六年度岡崎市小中学校新規採用教員は、四十四名(男子二十二名、女子二十二名)である。

新任教員の配属は、次のとおりである。

・小学校(二十六名)

- 梅園小 杉山 有紀
根石小 滝本 純代
美合小 山内 哲也
緑丘小 入江 健一
六名小 竹内 理恵
福岡小 市川 岸江
恵田小 山本 公三
奥殿小 加藤 周司
細川小 原田 康司
大門小 西片 茂雄
木内 祐子
阿部 将人
杉江 葵
棚橋みゆき
矢作西小 八田 麻衣
矢作東小 三輪 恭之
六ッ美中部小 金子 裕介
六ッ美北部小 岡井 尚樹
六ッ美南部小 丹羽 千恵
城南小 佐々木 歩
小豆坂小 大坪 孝子
石原 邦子

・中学校(十八名)

- 北野小 兼松ゆかり
六ッ美西部小 金丸 幸司
甲山中 光田 健
美川中 岡野 賢治
南中 岡内 益文
竜海中 杉田 友紀
神尾 有香
伊藤 祐二
名倉由香里
葵中 今井 丈晴
城北中 石川 利彦
東海中 久田 賢作
矢作中 田上 純子
六ッ美中 中川りえ子
矢作北中 都築 秀次
竜南中 加賀 智美
千種 都子
高橋 一宏
北中 波江野寛之
澤脇 茜
六ッ美北中



▲ 新任教師の集い (少年自然の家 3/25 ~ 3/27)

● 表彰

◆ 第十三回音楽教育振興賞

- 助成部門 現職教育音楽部
都道府県こどもフェスティバル in 仙台
県代表 緑丘小四年二組

◆ 第十六回リトルアーティスト 絵画コンクール

- リトル大賞
矢作南小一年 早川 竜矢
竜美丘小四年 一色みさこ
本宿小五年 小島 千明
東海中二年 野村友樹子
岡崎市長賞
矢作東小二年 長坂 有紗
緑丘小三年 穴井千枝子
矢作西小六年 彦坂 友貴
竜海中三年 石鷲見友希乃
市議会議長賞
梅園小二年 小林 知絃
根石小三年 足立奈津美
矢作中三年 鈴木 知里



▲ リトルアーティスト絵画コンクール リトル大賞 矢作南小 早川 竜矢

・教育委員会賞

- 井田小一年 田口 尚幸
竜美丘小四年 木村ひかる
梅園小六年 村松 昇
竜海中三年 千賀 光紗

◆ 第五十三回全国小・中学校・PTA新聞コンクール

- 学級新聞の部
福岡小五組「五くみでGO!」
美川中六組「ハッピー六組」

◆ 平成十五年度愛知県新人バレーボール大会

- 男子優勝 竜美丘小学校
二位 矢作南小学校
女子優勝 上地女子バレー
ボール少年団

◆ 第一回「ふるさと岡崎メディアアコンクール」

- 学校教育部門最優秀賞
竹内 昭博(藤川小)

◆ 読書感想画県コンクール

- 優秀賞
大門小五年 鈴木 優太
優良賞
本宿小二年 八田 桃子
竜美丘小三年 鳥居 大輝
三島小二年 高塩 芹
大樹寺小五年 大竹 遼平
六名小五年 田村 洋輔
新香山中二年 伊藤 麻希

● 平成十六年度岡教組執行委員

- 委員長 荻野 卓寛
副委員長 小田 昌男
書記長 加納 隆
書記次長 中 立 香
組織部長 稲垣 祐嗣
情宣部長 林 幸康
教文部長 岩瀬 竜弥
福対部長 安藤 眞樹
調査部長 河合 正浩
会計委員 深津 伸夫
青年部長 廣瀬 浩司
女性部長 荒井 留美

◆ 平成十六年度愛教組執行委員・常任

- 執行委員 荒河 昌吾
女性部常任 山田ゆかり

岡崎市中学校 総合体育大会

(昭和32年)

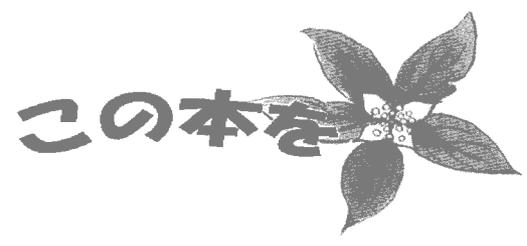
写真提供：竜海中学校

フォトヒストリー 岡崎の教育



新学制十周年の記念行事として昭和三十三年六月十九日、岡崎公園グラウンドにて、全中学校の生徒と教職員が一堂に会して記念式典と体育大会が行われた。交通手段等、意見調整でかなり産みの苦しみがあつたようだが、開催したところたいへん好評であつた。こうしたいきさつで、中学校総合体育大会が毎年開催されるようになり、今年度で四十八回を迎える。会場については、昭和六十一年までは岡崎公園グラウンド、翌年からは、現在の県営グラウンドで開催されている。

・題 岡崎市教育長 藤井孝弘
・タイトルバック 六名小 高木理人
・カット 生 平 小 小林彰一



この本を

- *念に生きる 坂村 真民 ￥1800
致知出版社
- *「閑」のある生き方 中野 孝次 ￥1500
新潮社
- *夜回り先生 水谷 修 ￥1400
サンクチュアリ出版
- *説教名人 齋藤 孝 ￥1200
文藝春秋

*愚直に生きる 早乙女 貢 ￥1600
集英社
「愚直、とは何か。それは人間の真摯な生き方を指す。」

冒頭の言葉に惹かれて本書を手にした。本書は、幕末から明治へと激動の時代を、敗北を予感しつつも己の信念を貫き、新政府軍と果敢に戦い、そして敗れた八人の列伝である。会津九代藩主松平容保、新選組副長土方歳三等、いずれもその生き方は歴史的評価は分かれるにせよ、私利私欲を求めず、信念に生きたということで心が動かされる。名声と栄華を求めず、己の信ずる士道を貫き通したその生きざまは、時代を超えて読む者の胸を熱くする。

オリンピックキヤーの今年、様々な競技で代表選考会が行われてきた。出場権を巡る選手の明暗。そして、注目選手には過剰なまでに日本中の期待がかかる。しかし、出場選手同様、選考に敗れた選手も夢の実現のために、過酷な練習に耐えてきたことを心に留めておきたい。

新天地、気分も新たにスタートを切る。
木々の梢も、路傍の草花も、この季節を待っていたかのように装いを変える。花や若葉の彩りと、春の日差しとの暖かさが応援するかのように入を前へ前へと推し進める。私もそんな人になりたい。

シオ スア

足元を見ると、真っ白なシューズ。期待と不安で胸をいっぱいにし、新入生が第一歩を踏み出す。拍手を贈る在校生の顔も、どこことなくりりしく見えるから不思議だ。何もかも新しくさせる四月。私たちも、新たな気持ちで、この子供の輝きを大切にしていきたい。

スペシャリストであること。当然のことなのだが、毎日の生活の中でつい忘れがちになる。

新年度が始まった。子供たちの中に、本当の「確かな学力」や「豊かな心」を育みたい。そのための研鑽を積もう。私たちは教育のプロなのだから。